

まち探訪

ふれあい豊かに 質の高い暮らしと文化があるまち
倶知安町



倶知安町基礎データ

○総人口 (平成29年8月末現在 住民基本台帳)	15,351人	○面積	261.34km ²
○高齢人口	3,768人 (同上)	○農業産出額 (平成27年 農林業センサス結果等を活用した推計(農林水産省))	3,460百万円
○世帯数	7,991人 (同上)	○卸・小売年間販売額 (卸：10,375百万円、小売り：15,727百万円) (平成24年 経済センサス・活動調査)	26,103百万円
○人口密度	58.74人 (同上)	○一般会計規模	89億4千万円 (平成29年度当初)

問合せ先：倶知安町総合政策課企画振興室広報聴係 電話0136-56-8001

倶知安町の紹介

倶知安町は、富士山に似た姿から蝦夷富士とも呼ばれる「羊蹄山」とニセコアンヌプリを主峰とするニセコ連峰に囲まれ、清流尻別川が流れる、自然豊かな町で、今年で開基126年を迎え、古くは旧石器時代から縄文時代までの遺跡が町内に22カ所存在するほか、日本書紀にも登場する阿倍比羅夫に関する逸話があるなど、長い歴史を有しています。

世界に誇れる国際リゾートを目指す倶知安町では、夏は尻別川でのラフティング、羊蹄山麓でのサイクリング、登山、ゴルフなどのアウトドアスポーツの人气が高く、近年はリバーサップやマウンテンバイクなど、豊かな自然環境を活かした新たなアクティビティメニューが誕生しています。さらに、本州やアジアからの避暑を目的とした長期滞在者が600組を超え、長い方で3カ月以上を倶知安町で過ごし北海道の夏を満喫しています。また、冬には豊富に降り積もる上質なパウダースノーを求め海外からも多くの観光客が訪れ、

スキー場周辺地域をはじめ倶知安駅周辺の市街地においても国際色豊かにぎわいを見せます。

さらに、羊蹄山の豊富な湧水や、昼夜の寒暖の差が大きい気候条件のもと、じゃがいもはもちろんメロン、アスパラガスなどの農業も盛んです。また、特産品のじゃがいもを使用した豪雪うどんは、つなぎをほとんど使用せず、じゃがいもだけで製麺をするため、食感が良くコシの強さが自慢の幻のうどんとして、お土産としても人気です。

町名の「倶知安(くっちゃん)」はアイヌ語の「クッシャニ」から転訛して名付けられました。「クッシャニ」とは「くだ(のようなところ)を・流れ出る・ところ」の意です。

町花は「キバナシャクナゲ」で、7月～8月頃に黄色い5枚の可憐な花びらをつけます。羊蹄山・ニセコ山系の代表的な高山植物であることから選定されました。また、町木の「イタヤカエデ」はカエデ科の落葉樹で秋になると7枚にくびれた葉が黄葉します。倶知安町周辺に広く分布し、スキー普及の初期に

はスキー板の材料となったことから選定され、公園や街路樹に広く利用されています。

世界に誇れる国際リゾートを目指して

①国際化するウィンターリゾートの町

倶知安町は、秀峰羊蹄山とニセコ連峰に囲まれた自然豊かな町です。その美しい自然は、様々なアクティビティの魅力を向上させ、私たちの町に国内外から多くの人々を呼び込んでいます。

昭和47年に「スキーの町宣言」をした倶知安町のスキー史は、明治45年、日本にスキーを伝えたと言われるレルヒ中佐による羊蹄山の一本杖スキーにさかのぼります。その後、「東洋のサンモリッツ」とも呼ばれるスキーの聖地となり、現在、冬には日本国内だけでなく世界各国から多くのスキーヤーやスノーボーダーが、上質なパウダースノーを楽しみに訪れています。

なお近年は、「旅行業界のオスカー」と評されるワールド・トラベル・アワードのひとつである「ワールド・スキー・アワード（世界のスキー観光産業の中で最も名誉ある賞）」では、町内のスキー事業者や宿泊施設が世界一に輝くなど、観光客のみならず世界中の旅行業やスキー業界での評価も年々高めています。

特に冬季の外国人観光客は2001年のアメリカ同時多発テロを契機に、それまで北米を訪れていたオーストラリアからの観光客を中心に増え続け、外国人宿泊客数は平成28年度で35万人を超え、この10年で5倍に伸びています。今なおコンドミニウムホテルの建設が活発で、昨年は最上階のペントハウスが約6億円のコンドミニウムが開業したほか、アメリ

カのハイアット・ホテルズ・アンド・リゾーツは2019年冬に「パークハイアット ニセコ HANAZONO」を、また隣のニセコ町には2020年までには「リッツ・カールトンリザーブ」が開業する予定で、高級業態でのホテル投資の動きが相次いでおり、海外資本を中心に「投資と消費の好循環」が生まれつつあります。その要因としては、安定したパウダースノー、蝦夷富士羊蹄山に代表される自然景観、豊かでおいしい食・水などのポテンシャルの高さに加え、2030年度開業の北海道新幹線倶知安駅、高速道路倶知安インターチェンジ、札幌冬季五輪招致（アルペン競技等会場をニセコ地区に計画）など将来性が高く評価されていることが考えられます。

こうした情勢を受け、地価調査等でスキー場周辺地区が地価上昇変動率全国一位となることが珍しくなく、市街地においても上昇傾向にあります。人口においては、リゾート関連に従事する外国籍住民数は今年1月末には1,592人となり、町全体の約1割を占め、町内のスーパーでは外国人の住民や観光客が買い物をする姿が大変目立つようになりました。

②サイクルスポーツの適地倶知安町

倶知安町は冬には国内外を問わず多くの観光客が訪れている一方で、季節によりその差が大きいことから、観光の通年化が課題となっています。

町は観光協会をはじめとする関係機関と連携し、地域の自然、アクティビティや食など四季折々の魅力を取り込み、通年観光の実現に向け、特に各産業間の連携強化による雇用と新たな仕事の創出につなげることで地域経済の活性化が図られるよう、夏季の自転車をはじめとする観光コンテンツの魅力創出に取り組んでおり、この夏も、今年で4回目とな

るUCI（国際自転車連盟）公認の国際大会、ニセコクラシックが開催され、その前日には関連イベントとして羊蹄一周ファンライドが初開催となり、参加者は美しい羊蹄山の姿を眺めながら、休憩ポイントとなるエイドステーションでは、提供された地元の食を楽しんでいました。この他にも、いくつものサイクルイベントやレースが倶知安町を発着として開催され、町民はもちろん道内外や海外からも多くのサイクリストが集いました。

また、この盛りあがりにはロードバイクだけ

でなく様々なカテゴリーのサイクルスポーツに波及しており、今年2回目を迎えた子ども用ペダルなし自転車の公式大会（ストライダーエンジョイカップ）では、中国など海外からの参加も目立ったほか、これまで本格的なマウンテンバイクのダウンヒルコースが設置されていた、ニセコグラン・ヒラフにおける初心者向けコース（フロートレイル）の開設はニセコの新たな観光の目玉として期待されています。



スキー場から望む羊蹄山



外国人で賑わうスキー場



じゃがいも畑と羊蹄山



ニセコクラシック